12月の道内景況　情報連絡員レポート

主要DI回復の兆しあるも、原油高の影響色濃く

概　況

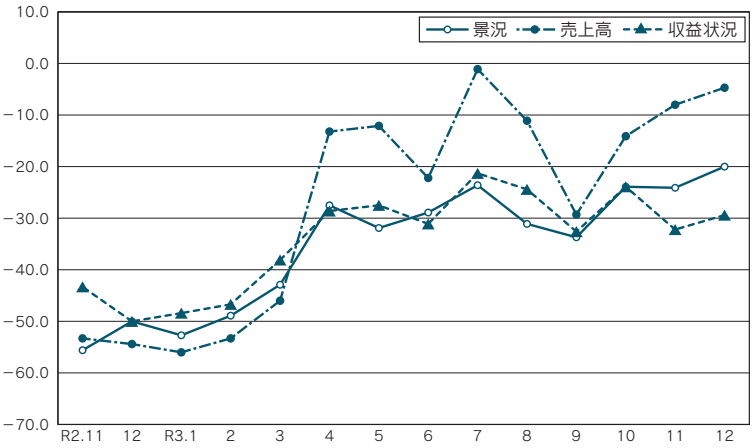
全業種の主要DIの推移では、「景況」、「売上高」「収益状況」すべてにおいて、前月よりも回復している。

情報連絡員報告によると、製造業は、原油高の影響で原材料が高騰しているが、製品価格への転嫁できず苦慮している。

非製造業では、個人消費が年末の駆け込み需要などにより、景気がプラスとなった。また、新型コロナウイルスの変異株（オミクロン株）感染拡大に対しては、多くの業種で不安の声が聞かれた。

原油高の影響は、先月同様に、製造業のみならず、広い業種に影響を及ぼしている。

主要 DI の推移



景況天気図（前年同月比）

	全業種			製造業			非製造業		
	11 月	12 月	前月比	11 月	12 月	前月比	11 月	12 月	前月比
業界の景況	△23.9	△20.0	3.9 ↗	△21.2	△12.5	8.7 ↗	△25.4	△24.5	0.9 ↗
売　上　高	△14.1	△4.7	9.4 ↗	△18.2	△6.3	11.9 ↗	△11.9	△3.8	8.1 ↗
収 益 状 況	△32.2	△29.4	2.8 ↗	△18.2	△28.1	13.8 ↗	△27.1	△30.2	△3.1 ↘
販 売 価 格	14.1	20.0	5.9 ↗	15.2	15.6	0.5 ↗	13.6	22.6	9.1 ↗
取 引 条 件	△7.6	△9.4	△1.8 ↘	0.0	3.1	3.1 ↗	△11.9	△17.0	△5.1 ↘
資 金 繰 り	△13.0	△5.9	7.2 ↗	△15.2	△3.1	12.0 ↗	△11.9	△7.5	4.3 ↗
雇 用 人 員	△13.0	△17.6	△4.6 ↘	△9.1	△12.5	△3.4 ↘	△15.3	△20.8	△5.5 ↘

（凡例）　30 以上　10 ～ 29　9 ～△ 10　△ 11 ～△ 29　△ 30 以下

天気図の見方　各景況項目について調査月と前年同月を比較して、「増加」（または「好転」）したという回答（構成比）から「減少」（または「悪化」）という回答（構成比）を差し引いた値（DI）をもとに作成。天気の表示は凡例のとおりです。

製造業

・コロナ禍が多少落ち着いてきた矢先に原料、容器等包装資材さらに重油価格等の値上要請が目白押しだが、依然景気が低迷しており製品価格を上げれる環境ではなく大変苦慮致している。（飲料／全道）
・味噌出荷量（道内）；単月（令和 3 年 11 月）前年対比　102.7%
醤油出荷量（道内）；単月（令和 3 年 11 月）前年対比　108.7%
・令和 3 年 1 月～ 11 月の道内・累計出荷量；味噌　前年対比　95.2%
醤油　前年対比　96.0%
・令和 3 年 1 月～ 10 月の全国・累計出荷量；味噌　前年対比　96.7%
醤油　前年対比　99.6%
・11 月単月出荷量は味噌・醤油ともに良かった。ただ、販売価格は年初から見ると下がっており、原材料・包材・その他コストアップ要因も多くあり、業界としての厳しい環境は変わらない。（味噌・醤油／全道）
・人の動きが少し見られるものの、印刷関連業界は未だ厳しい経営環境が続いている。（印刷／札幌）
・今後、主原料及び副資材の値上がりの動向が気になるところであり、値上がりと比例して収益への影響、経営状況への打撃は避けられない。（加工紙／全道）
・原木量の確保が困難、仕入れ価格上昇で収益状況は上半期と比較すると悪化し、販売価格を 2 月より値上げの交渉中（一般製材／幕別）
・トドマツ原木は、製品受注が旺盛な為、一部地域を除いて価格が上昇傾向にある。また、国有林材の調達が出来ている工場でも不足感が出てきている模様。市況については、地域差が保合～強含みである。カラマツ原木は、製材受注が旺盛であるが、慢性的な原木不足は、解消されていない。サイズによっては非常に窮屈な状況となっており、今後も不足感は続くものと考えられ、需要に対応仕切れていない状況。市況については、保合～強含みで推移。
・製材市況は、エゾ・トドマツは、保合～強含みが見込まれる。カラマツは、保合～強含み。紙原料は、製材工場がフル稼働している関係で背板チップに陰りが出ている模様。木質バイオマス原料については、順調に集荷されている模様。
・外材の高騰も高止まり模様。コンテナ不足等により輸入製材の入荷が遅れていることから道産建築材は引き合いがある模様。今後、北米材、欧州材共に高止まりで推移。（一般製材／全道）
・12 月の生コン出荷量はおよそ 209 千㎥。（前年同月比 92.0%）地域別には、前年同月を上回った分会（協組）は 29 分会（協組）中、15 分会（協組）。なお前年の増加 14 分会（協組）は上回った。前年同月と比較して、増加したのは北渡島、後志、北根室など。一方、減少したのは札幌、苫小牧、千歳地区などであった。（生コンクリート／全道）
・函館地域では、前年同様道路・河川の維持事業の発注がおこなわれているが、砂利を必要とする工事が少ない。北海道新幹線札幌延伸工事による砂利需要は、昨年並みにあるものの、工事が遅れ気味となっている。当組合では、留萌支所と函館支所の連携により砂を瀬棚港から長万部のセメントプラントへ 1,200 ～ 1,300㎥ / 月程度トラック輸送を実施している。（砕石／全道）
・徐々にではあるが、経済活動が元に戻りつつある。しかし、業況に反映するまでには至っていない。一部の地区では、箱モノの見積件数が 3 年前程と比較して半分以下になっている。製品価格の上昇、運賃の上昇など、製品の値上りが実施され、今後は、製品の需要と供給のバランスが崩れ、今まで以上に納期が掛り、製品が入らなくなってしまう事態も考えられる。（ガラス／全道）
・原材料、副資材が高値で安定している。鉄材が不足気味。半導体の品薄で、設備更新が予定通り実施されない。（銑鉄鋳物／全道）
・過去の造船ブーム期に迫る発注量で 23 年度船台を完売し 24 年度後半の受注を完了している造船所が多数。好調な海運市況や鋼材価格の高騰で新造船価格も右肩上りで上昇し 10 年以来の高値水準となっている。組合員の業況としては、年明も橋梁・陸機工事は、仕事量不足が続くが、2 月から大型アンローダー修繕船工事もあり 1 月が我慢の月で 2 月以降の工事は順調に推理している。（金属製品／室蘭）
・年末の駆け込み需要が思ったより少ない。オミクロン株が今後どのように影響をしてくるのか、また先行きが不透明になってきている。（金属機械工作／全道）
・原材料などのコストアップを簡単に価格転嫁できない。（金属機械工作／札幌）
・業況は例年並みで安定している。懸念材料として、今後の景況、資材の高騰があげられる。（金属機械工作／釧路）

非製造業（卸・小売・商店街・サービス業）

・前年に比べ新型コロナウイルスの影響が少なくなり、寒波の到来もあって靴履物等の冬物季節商品が大きく伸長、単価は低下するものの、数量の増加が大きく売上は増加。建築関連の資材や機器は輸入品の品不足と価格高騰が続いており、売上、収益とも低下。12 月後半からオミクロン株の国内侵入の情報により、今後の感染拡大を懸念して会議室の予約等に慎重な姿勢が目立ち始めている。（各種商品／札幌）
・コロナ禍の影響として、飲食を伴う懇親会（歳末親睦パーティー）は中止となり、各組合員においても忘年会・新年会を実施しない企業が多い。十勝管内の感染者は、ここ 2 か月ほど確認されておらず落ち着いた状況であり、師走となり市中も賑わいを戻しているように感じる。ただ、オミクロン株の今後の広がりが懸念されているので、注視したい。（各種商品／帯広）
・令和 3 年 12 月期の当組合買付高は仲卸、荷受け合計 1,446,943 千円で先月の 11 月期実績より 228,519 千円ほど増加した。年末年始の重要期に押されて買付額は増加したが、昨年夏場以降の酷暑、降雨不足、秋口にかけての天候不順の影響で 12 月期の青果物価格が高騰したためで、需要が増えた影響とは言い切れない部分がある。感染者数はオミクロン株の影響で増えてきているが、青果物の高値と生鮮品の販売低迷が併存している状況である。今期は年末の活気が今一つ感じられず、生鮮需要が高価格の影響で低下した格好となったようである。1 月は一般的に需要期明けで落ち込むが、青果物の価格上昇の影響で、見通しとして買付高はあまり落ち込まずに流通量のみが減少する事態も懸念される。（野菜・果実／道央）
・各メーカーより商品の在庫切による売り上げ減少が続いている。（電気資材／全道）
・前年比較（2019 年比較）物販見込 108.0%（92.5%）金融 96.4%（76.2%）
・旭川の感染が減少傾向にある中、クラスターが発生したり、依然として油断できない状況が続いている。消費においては、警戒感が弱まり商業施設には例年に近い人出と活気が戻り、何れの業種においても売り上げが増加した。特に旅行関連や高速道路の売上が昨年より大幅に伸び、巣ごもりから脱する兆しが伺える。その他、衣料品・家電・燃料が好調であったが、全体では一昨年前の売上までには回復に至らず依然として厳しい状況が続いている。（各種商品／旭川）
・12 月は売上が回復傾向にあり、コロナ禍前と比べても 9 割程度売上が回復している加盟店もいた。当地域での感染者がいないことが最大の要因であり、1 人でも感染者が発生した場合、再び客足が鈍くなることは明確であり、どの加盟店も感染者の発生を懸念している。（各種商品／日高）
・12 月取扱高は、前年比 99%の状況。北海道緊急事態宣言解除からアフターコロナでの 12 月年末消費は、前年より若干プラス。世界的な半導体不足による影響は、中古車市場でも発生していて中古車物件が不足していることによる取扱高の落ち込みが出ている。（各種商品／苫小牧）
・12 月は先月より更に商品価格が高騰している。客足については順調で、地元客に加え、札幌圏からの来客も多くなってきている。各店からの「歳暮」のし紙印字依頼は、昨年と同様程度であった。客足は伸びてきているものの、新型コロナウイルス感染症拡大前の水準には戻っていない。（各種商品／小樽）
・各組合員の状況について、12 月も前月同様女性向け衣料品、化粧品等を扱う店舗がプラス、ガソリン、灯油を扱う組合員店においても前年を大きくクリア、貴金属関係はクリスマスムードもなく前年マイナスの状況、ガソリン、灯油関連では原油価格の高騰から利幅が圧迫され資金繰りに苦労した。
・12 月の取扱高について、12 月は旅行業、飲食業に大きな動きが見られ、物販店においては静かな師走となった。年間の一大イベントである当社の歳末セールも前年割れで、特に高額利用のお客様が激減したことが特異な動きであった。釧路市発行のプレミアム付き商品券の利用期限が 12 月末ということも要因の 1 つと考える。加盟店においては、前出のプレミアム付き商品券の利用もあり売上自体は前年並みでの推移となった模様。（各種商品／釧路）
・函館市は 1 日、2021 年度上期の観光客数が前年同期比 8.7%増の約 200 万人だったと発表。平成以降でワースト 2。特に外国人宿泊客数は同 56.7%減。統計開始以来過去最低を記録した。函館市独自の支援制度「商店街等年末年始消費拡大事業補助金」を利用して、市内の商工会や商店街など 16 団体が年末年始に抽選会やプレミアム付き商品券発売などの消費拡大企画を実施した。函館朝市においては、ここ数か月（10 月以降）でようやく観光客の往来も目立つようになり、あとは、年明け以降の入込に期待しつつも降雪量に若干左右され不安視。函館市独自の支援制度「商店街等年末年始消費拡大支援事業補助金」を活用し販売した「函館朝市プレミアム付商品券」では、販売の初日に行列が出来るなど、ご購入いただいたお客様をはじめ各店の関係者にも大変ご好評をいただき、早くも第 2 弾を期待されているところである。（各種商品／函館）
・組合全体の前年比は 94.1%、食品スーパー関連 92.4%、ホームセンター 88.5%、一般 101.5%。灯油やガソリンの高騰による購買意欲の低下が、スーパーなどの売上に影響した。（各種商品／芦別）
・年末は、イクラ、カニ、エビ、マグロなど仕入れ価格が上昇、売上価格にも影響した。仕入れ価格の上昇が、売価に反映できないので、利益の減少につながっている。（各種食料品／道央）
・2 月は、コロナ感染も収まり、地元のお客様も増え、観光客も増加した。
・週末には、「和商の日」を 3 週連続開催し、富くじ抽選会を実施し、コロナ感染前の一昨年より、入店客が増加した。コーヒー店や団子屋、焼き芋店など、催事も入店し賑わいを見せた。来店客にはマスクの着用、出入り口にはアルコール消毒を設置し、館内放送にてお願いをし、定期的に出入り口を開放し、換気対策を実施している。飲食店を除き、店内での飲酒を禁止し長時間の滞在を防ぐようにお願いをしている。尚、店内のお客様が利用したテーブルには、飛沫対策のアクリル板を設置し、テーブルやイスはこまめにアルコール消毒をしている。（鮮魚／釧路）
・年末の天候不順が、取引先である小売業者に影響したため、当組合も厳しい状況であった。人流が増えており、観光面での業績は昨年よりは上がっているものの、回復には時間を有する。併せてコスト増による懸念材料も増している。（菓子／全道）
・組合員情勢として、12 月は原油価格が値下がりの為、卸価格も下がり小売店の販売価格も改定された模様。収支状況は従来と同じく量販店に影響され厳しい利益口銭で推移、利益は圧縮状態が続いています。（燃料／旭川）
・原油価格が上昇する中、SS におけるガソリン価格は高止まりの状態が続いているほか、灯油も昨年に比べ大幅な価格上昇となっている。一方、安値市況が続く一部激戦地では、地場中小零細企業の経営は引き続き厳しい状況。また、全国ベースでのガソリン販売量を見ると、依然としてコロナ前の状況に回復していない。石油製品の店頭価格は、ガソリン、灯油とも相当高い水準にあることから、消費者の買い控え等による販売量の減少が懸念されるほか、新型コロナウイルス感染症の感染者数が再び拡大傾向にあることも先行きの不安要素となっているのではないかと考えられる。（燃料／全道）
・仕入れ価格は数年ぶりに値下げしたもの、原油価格上昇、円安など不安定な状況は続いている。年末の観光、飲食業に関した LP ガス数量上昇に期待はしたもの、数量については伸び悩む。年明けからの需要回復に期待する。（燃料小売業／稚内）
・道北地方は、大雪で除雪機の修理依頼など動きが激しく、札幌近郊では地域差があるが、年末近くの大雪で除雪機の修理等の依頼が多かった。（自転車・自動車／全道）
・11 月売上高は、4 億 74 万円（前年同月比 2.3%減）、12 月共通駐車券の利用は、前年同月比 92.8%、買物共通パス券は、前年同月比 13.4%。3 か月ぶりに新規感染者が発生、飲食店は依然厳しい状況が続いている。（各種商品／帯広）
・昨年同月は緊急事態宣言の発令、およびそれによる支援事業の停止、年末年始のキャンセルが一気に増大した時期となるため、単純な前年比較は宿泊入込数、売上ともに増加。道民割、おとふけ割による集客も土日が中心、インバウンドもない中、平日がなかなか集客できずにいます。まだまだ通常期までの集客と売上には遠く、第 6 派感染拡大が起これば予約はまたすぐに消える可能性がある不安定な状況。（旅館／帯広）
・新たにオミクロン株の感染拡大及び冬場のインフルエンザの流行等入浴者利用の減少の不安、加えて営業用燃料及び光熱費その他備品等の値上は、営業者にとっての負担は非常に厳しい。（公衆浴場／全道）
・首都圏の大手企業を中心に DX（デジタルトランスフォーメーション）の需要が依然高く、製造、流通、金融など幅広い業種から大手システム開発企業経由で道内中小 IT 企業へシステム開発案件の発注が続いている。半導体不足の影響もなく、コロナウィルス感染に注意する中での案件増加は好調な業績向上につながって今年度は増収となる見込み。しかし、案件の増加は、開発要員の確保が必要となるが、相変わらずの人材不足の影響で、契約案件の納期遅延が発生する等、大きな経営課題になりつつある。又、AI、IoT、5G、セキュリティ、クラウド等高度なシステム開発の要求度合いが増しているものの、高度な技術人材の確保と現人材の技術スキルの習得や知識の高度化教育については思うように進まず、道内中小 IT 企業にとっては悩みの種を抱えながらの事業経営が続いている。（ソフトウェア／全道）

非製造業（建設・運輸業）

・12 月の業況として、公共工事に関しては大きな物件はなく、来年度工事に向けて配置する技術者の準備をしていく状態。民間工事に関しては、大きな物件の計画などは進んでいるが、小中規模の工事の動きに関しては少ない。また見積りを行って も来年度の予算取りの見積もりが多い様に感じ、材料を始め電気関連製品の価格の上昇や納期内に収める事が出来るのかを確認した上で、お客様に最終の見積金額を提示するというプロセスがとても重要になってきている。照明器具など品薄になった品の入荷を待つのか、代替え案を提示するのか、企業としての臨機応変さが試される状況になってきており、更なる最新の情報収集と社内や関連業者との情報共有が必要になってきている。（電気工事／札幌）
・組合員の業況として、本格的な降雪期となり、この時期としては、ほぼ平年並み。年末年始にかけて凍結修繕が増える傾向にあるので当番予定業者は対応できるよう準備をしている。問題点として、市では 12 月中に令和 4 年度予算要求の財政部局による予算ヒアリングを行い、年明けには市長査定が予定されているが、上下水道の情報では 3 年度事業規模（工事請負・委託）より減少するとの情報がある。（管工事／名寄）
・1. 売上高は、前年同月比　11.78%
2. 乗務員数は、前年同月比　10.7%
3. 11 月分チケット取扱高は、前年同月比　12.78%（一般乗用旅客／旭川）
・仕事量は増えている様子はなく、原油高騰から燃料油価格が約 22 円上昇、更に、アドブルー不足からこれも 20 円以上値上がりしており、経費増となっている。（一般貨物自動車運送／小樽）
・農作物については、作柄・量が悪かったため、輸送量は減少している。一般雑貨・日用品については低調な状況が続いていたが、年明け後、消費財が値上げされることもあり、輸送量が一時的に増えた。燃料以外の消耗品の価格も上昇しており、経営環境は厳しい状況にある。（一般貨物自動車運送／石狩）
・フードデリバリーを仕事の一部にしている組合員がでてきた。1 日 16,000 円になるチャータより自由な時間が取れるフードデリバリーが自分に合っていとの声もあり、協同組合のあり方が問われている。（一般貨物自動車運送／全道）